

道徳学習指導案（6年〇組）

1 主題名 法やきまりを守って（内容項目4-（1）規則尊重）

（資料名 「きまりは何のために」（出典：私たちの道徳 小学校5・6年 文部科学省）

2 主題設定の理由

(1) ねらいに関わる児童の実態

小学6年生は、一般的な社会のルールに従って生活できており、学校のルールも守って生活できている。しかし、特に深くルールやきまりについて考えている児童は少ない。社会のルールだから、学校のルールだからという気持ちで、割り切って守っている児童が多くいる。しかし、自分たちでルールを決められる時、例えば、校外学習や縦割り活動の時などは、グループのメンバーに合わせてルールやきまりを変更したりしていて、ルール、きまりづくりへの関心は高い。しかし、児童同士がルール、きまりをつくる場面では、全員の意見や弱い立場の人に合わせてルール、きまりを随時変更しているように思えるが、深く追究すると、立場や力が強い児童が不利にならないようなルール、きまりになっていたりすることもある。これは、児童がルールやきまりの意義を理解していない表れと言える。また、自分たちでルールやきまりをつくっていく際に、学級で話し合ってきたルールやきまり、学校全体で決めたルールやきまりにもかかわらず、自分の考えが正しいと主張したり、学級や学校のきまりやルールがおかしいと反論したりし、ルールやきまりを守らない児童がいるのも確かである。よって、誰かに言われてでなく、ルールやきまりを守ることそのものに価値があるということに気付かせ、時や場所、立場を自分自身で考えて行動する態度が大切である気付かせることは、大変意義深いと考える。

(2) ねらいとする道徳的価値について

高学年4-（1）は、社会生活上のきまりや基本的なモラルなどの倫理観を育成する観点から、児童が、法やきまりの意義を理解し、遵法の間持つところまで高めようとする内容項目である。

高学年の児童は、個性を尊重することや自由であることをはき違えて、ルールやきまりを守ることができないことがある。それは、自分自身の欲求に従って行動した結果、わがままな言動が優先されてしまうためであるとする。その結果、普段の生活の中で、周囲の人と協力することができなかつたり、様々な問題が生じることがある。また、他者の存在に気付くとともに集団の中における自分の存在を意識し始め、自他の存在を客観的、多角的に捉え始め、ルールやきまりを守れていない人に対して、厳しく指摘することがある。しかし、それが自分の場合には、都合のいいように解釈し、自分のルール違反のために、他の人に与える影響を軽く扱う傾向がある。

そこで、自分自身の自由を追求したり、社会の秩序を維持し、互いの生活や権利を守ったりするためには、法やきまりは不可欠なものであることについて深く考えさせる必要がある。また、法やきまりの意義を理解し、尊重することによって、より良い社会をつくっていかうとする遵法精神を育むことも必要である。

(3) 資料について

本資料「きまりは何のために」は、国会という国の立法機関の在り方などから、自分たちの生活におけるきまりの意義について考えさせる資料である。健一たちの学校には、自分たちで決めた校庭遊びのきまりがあるにもかかわらず、鉄男と明の自分勝手な考えによって、きまりは守られていなかった。しかし、国会議事堂の見学を通じて、国の法律を決める国会の仕組みや国会議員たちの姿勢を知り、改めてきまりについて考えてみようとする。国会見学を通して、鉄男と明たちが気付いたことや改めてきまりについて考えてみようとした思いを想像することによって、きまりの意義について考えようとする意欲を高めることができる資料である。

3 指導方針

- 本主題では、児童が規則尊重についての道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めるために、以下のような授業を展開する。
- 導入では、道徳的価値に対して問題意識を持たせるために、学級のみならず学校生活を送るなら、きまりがとてたくさんあるA小学校ときまりが全くないB小学校のどちらの学校に通いたいかについて質問し、それぞれを2段階に分けた直線を示し、ネームプレートを貼るように伝え、きまりを守ることに日常生活を想起させることで、一人一人の考えの違いを理解できるようにする。
- 展開前段では、道徳的価値についての理解を深めるために、一人でもきまりを守らないと、そのために周りに悪い影響を与えて、きまりを守らない人が多くなり、困る人が増えるので、きまりは守るべきものという価値理解と、きまりより自分たちの都合が大切という人間理解も深められるようにするために役割演技を取り入れる。また、児童自身が重ね合わせて深く考えたり、きまりを守ることの大切さについて振り返らせるために、書く活動や小集団での伝え合う活動を取り入れる。
- 展開後段では、展開前段までを通して高まった道徳的価値をもとに、日常生活を振り返りながらこれまでの自分やこれからの自分について考えられるようにするために、学校や社会のきまりについて、自分自身が守れているもの、守れていないものを挙げ、どうすれば守れるようになるか、自分との関わりで考え、書く活動や二人組での伝え合う活動を取り入れる。
- 終末では、私たちの道徳130ページを読むことで、きまりを守ることの大切さを理解し、進んできまりを守ろうとする態度につなげられるようにする。

4 研究との関わり

本研究では、「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める道徳の時間の指導の工夫」を研究主題とし、「日常生活につながる発問と書く活動、伝え合う活動を通して」を副主題に研究を進めてきている。

本時は、ねらいとする道徳的価値と児童の日常生活がつながるようにするために、教師が発問を工夫し、自らの考えを深めたり、整理したりするための書く活動や自己の考えを他者に伝え合う活動を取り入れた有効性を、発言やワークシート等を通して検証する。

5 本時の展開

- (1) **ねらい** きまりを守ることの大切さを理解し、進んできまりを守ろうとする態度を育てる。
- (2) **準備** 読み物資料 ワークシート、場面絵、ホワイトボード、プロジェクト
- (3) **展開**

学習活動	時間	主な発問(・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点 評価(★)
1 本時の学習課題をつかむ。	5分	○学級のみならず学校生活を送るなら、きまりがとてたくさんあるA小学校ときまりが全くないB小学校のどちらの学校に通いたいか。 ・A小学校は、みんな自分勝手に行動して困る。 ・B小学校は、自由に行動でき、楽だ。 ・迷ってしまう。	○A小学校とB小学校の二項対立で尋ねた後、それぞれを2段階に分けた直線を示し、ネームプレートを貼るように伝え、きまりを守ることに一人一人の考えの違いを理解し、問題意識を持たせ、道徳的価値に対する考えに気付かせる。
2 資料「きまりは何のために」を読み、話そう。	25分	○健一と鉄男、明になって、翌朝のやりとりを演じてみよう。この時の健一はどんな気持ちだろう。 (健一) ・なんて、自分勝手なんだ。・許せない。	○健一と鉄男、明の立場で役割演技をさせ、役割を交代させて両方の立場で演じさせる。 ○役割演技を通して、一人でもきまりを守らないと、そのために周り

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで決めたきまりを破るなんて、駄目だよ。 (鉄男と明) ・はいはい、健一君の言う通り。でもさ、自分の遊ぶ権利は主張しなくちゃね。 ・そうそう、ぼくの遊ぶ権利や買う権利をうばわないでほしいね。 <p>○鉄男と明が考え方を変えたのは、どのようなことに気付いたからでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の遊ぶ権利を奪っていた。 ・時間を守るという義務を果たさなかった。 ・きまりを軽く考えてた。 ・自分勝手だった。 ・自分だけはいいと思っていた。 ・遊びたい時に遊んで、迷惑を掛けた。 <p>◎健一、鉄男、明の学級の話合いで、あなたは、どのようなことを発表したいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校には、たくさんの方がいるので、みんなが気持ちよく過ごすためには、きまりが必要だ。 ・どんな人でも、安全で平等に生活するためには、きまりは必要である。 ・様々な立場の人たちが、気持ちよく過ごすためには、きまりは必要である。 ・けがや事故を防ぐためにも、きまりは必要で、きまりを守ることで安全に生活できる。 	<p>に悪い影響を与えて、きまりを守らない人が多くなり、困る人が増えるので、きまりは守るべきものという価値理解と合わせてきまりより自分たちの都合が大切という人間理解も深められるようにする。</p> <p>○きまりを破るのは良くない(価値理解)ことだと分かっているけど、時と場合によって、自分に都合の良いように考え、主張し、きまりを破ってしまう自分の弱い心(人間理解)にも目を向けさせるようにする。</p> <p>○議題の「きまりは何のためにあるのか」を確認し、自分の考えを述べるように、書く時間をしっかり取る。</p> <p>○きまりを守ることの大切さについて自分との関わりで考えられるようにするために、ワークシートに書いた内容をもとに、小集団での伝え合う活動を取り入れる。</p> <p>★きまりを守ることの大切さについて、自分との関わりで考えることができたか。</p>
<p>3 本時で考えたことを振り返り、発表する。</p>	<p>10分</p> <p>○学校や社会のきまりについて、自分自身が守れているもの、守れていないものを挙げ、どうすれば、自分やみんなが守れるようになると思いますか。これからは、どのように生活していきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下を走らないというきまりは守れていないことが多い。少しぐらい構わないと思っているけど、大きなけがにつながることもあるので、学校全体で廊下は歩くことを、伝えていきたい。 	<p>○自己の生き方について考えを深められるようにするために、これまでの生活を振り返り、きまりを守ることの大切さ、尊さを捉えさせ、ワークシートに書いた内容をもとに、二人組で伝え合う活動を取り入れる。</p> <p>★これまでのきまりを守ることの大切さについて自分の生活を振り返り、また、今後の思いや課題を自覚できたか。</p>
<p>4 教師といっしょに、私たちの道徳 130ページを読む。</p>	<p>5分</p> <p>○「ひびのおしえ」を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法やきまりを守るためには、どのような見方、考え方が大切なのかについて考え、「お互いに法やきまりを守り、してはならないことはしない」などのことが大切と考える。 	<p>○「私たちの道徳」を読むことで、きまりを守ることの大切さを理解し、進んできまりを守ろうとする態度を育てたい。</p>

(4) 板書計画

きまりは何のために

○学級のみんと学校生活を送るなら、きまりがとてもたくさんあるA小学校ときまりが全くないB小学校のどちらの学校に通いたいか。

- ・きまりがないと自分勝手になる
- ・きまりを守らない人がいると、つまらなくなる。

♥きまりは何のためにあるのか考えよう。

○翌朝のやりとり この時の健一は、どんな気持ち？

健一

- ・なんて、自分勝手なんだ
- ・なんで、きまりを守らないの

😊 😞

○鉄男と明が考え方を変えたのは、どのようなことに気付いたからでしょうか。

と 鉄男 明

- ・法律やきまりについて、もう一度考えた。
- ・自己中心的だった。
- ・自分勝手だった。

1. 健一、鉄男、明の学級の話し合いで、あなたは、どのようなことを発表したいですか。

- ・一人でも、自分勝手に行動すると、みんなに迷惑がかかるので、きまりは守ろう。
- ・学校には、たくさんの方がいるので、みんなが気持ちよく過ごすために、きまりを守ろう。

場面絵

2. 学校や社会のきまりについて、自分自身が守れているもの、守れていないものを挙げ、どうすれば、自分やみんなが守れるようになると思いますか。

これからは、どのように生活していきたいですか。

- ・学校のきまりはほとんど守れている。急いでいると、廊下を走ってしまうことがある。これからは、みんながきまりを守ろうという気持ちを持てば良いと思う。

ホワイトボード

学級のみんと学校生活を送るなら、きまりがとてもたくさんあるA小学校ときまりが全くないB小学校のどちらの学校に通いたいか。

A			B
(とてもたくさんある)	(まあまあある)	(あまりない)	(全くない)

(5) 資料分析

① ねらい

きまりを守ることの大切さを理解し、進んできまりを守ろうとする態度を育てる。

② 授業の意図

本資料「きまりは何のために」は、国会という国の立法機関の在り方などから、自分たちの生活におけるきまりの意義について考えさせる資料である。健一たちの学校には、自分たちで決めた校庭遊びのきまりがあるのにもかかわらず、鉄男と明の自分勝手な考えによって、きまりは守られていなかった。きまりを破るのは良くない（価値理解）ことだと分かっているにもかかわらず、時と場合によって、自分に都合の良いように考え、主張し、きまりを破ってしまう自分の弱い心（人間理解）にも目を向けさせるようにする。しかし、国会議事堂の見学を通じて、国の法律を決める国会の仕組みや国会議員たちの姿勢を知り、改めてきまりについて考えてみようとする。国会見学を通して、鉄男と明たちが気付いたことや改めてきまりについて考えてみようとした思いを想像することによって、きまりの意義について考えようとするすることで、進んできまりを守ろうとする態度（価値理解）について自分自身との関わりで考えさせる。

中心発問

健一、鉄男、明の学級の話合いで、あなたは、どのようなことを発表したいですか。

意図 きまりの意義について考えようとするすることで、進んできまりを守ろうとする態度を自分との関わりで考えさせる。

価値理解

他者理解

自己理解

きまりの必要性、きまりを守ることの大切さに気づき、進んできまりを守ろうとする気持ちを自分との関わりで考えさせる。

発問 鉄男と明が考え方を変えたのは、どのようなことに気付いたからでしょうか。

意図 自分の行動を振り返り、きまりを守ろうとする気持ちが軽く、自分中心だったことに気付かせる

価値理解

人間理解

他者理解

きまりを破るのは良くないと分かっているにもかかわらず、つい破ってしまう弱い心にも目を向けさせるようにする。

発問 健一、鉄男と明になって、翌朝のやりとりを演じてみよう。この時の健一の気持ちはどんな気持ちだろう。

意図 一人でもきまりを守らないと、そのために周りに悪い影響を与えて、きまりを守らない人が多くなり、困る人が増えるので、きまりは守るべきものという価値と合わせて、きまりより自分たちの都合が大切という人間の心の弱さにも気付かせるようにする。

価値理解

人間理解

他者理解

発問

学校や社会のきまりについて、自分自身が守れているもの、守れていないものを挙げ、どうすれば、自分やみんなが守れるようになると思えますか。

これからはどのように生活していきたいですか。

意図

きまりを守ることの大切さ、尊さについて改めて考え、その道徳的価値に基づいて、自分自身の生き方を考える。

自己理解

他者理解

道徳学習指導案（6年〇組）

1 主題名 謙虚に広い心で（内容項目2－(4) 寛容・謙虚）

（資料名 「ブランコ乗りとピエロ」（出典：私たちの道徳 小学校5・6年 文部科学省）

2 主題設定の理由

(1) ねらいに関わる児童の実態

本学年の児童は、友達と協力して活動したり、仲良く遊んだりすることができる。また、修学旅行や縦割り活動等を経験し、最高学年としての自覚を持つことができた。しかし、自己中心的な言動から友達とトラブルになったり、自分の意見と異なる意見があると、共感的に受け止めることが難しく、一方的に相手に反対意見を言い、いやな雰囲気をつくってしまうこともある。

小学6年生は、互いのものの見方、考え方の違いをこれまで以上に意識するようになってくる。そのため、自分と考えや思いが合わない相手に対して、攻撃的な言動をとってしまったり、相手の忠告や謝罪を素直に聞き入れられなかったりすることがある。相手の立場や事情を自分にも同様なことがあるという謙虚さを持って認め、それを許すことのできる寛容な心と、互いに不完全な人間であるからこそ尊重し合おうとする思いを育む必要がある。

また、学校生活の様々な場面で、互いに協力し合おうとする反面、個々の理想や意見がぶつかり合うことも増えてくる。このような時に、自分の意見や判断に固執するのではなく、相手の立場や意見を受け入れることの大切さも育む必要があると考える。

(2) ねらいとする道徳的価値について

高学年2－(4)は、広がりや深まりのある人間関係を築くために必要な、謙虚な心と広い心を持った児童を育てようとする内項項目である。

人間は、自分の立場を守るため、つい他人の過ちを非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れられなかったりする。しかし、より良い人間関係を築くためには、相手の立場や気持ちを考え、異なった意見に対しても、広い心を持って受け入れることが大切である。また、自分自身の至らなさに目を向け、他人の過ちを許し、相手から学ぼうとする謙虚な姿勢を持つことも大切である。

今日、解決しなければならない重要な教育課題の一つにいじめ問題がある。いじめをする側の問題として自分と異なる考えや思いを受け入れられず否定してしまうことや、相手の言動を見て、自分にも同様なことがあるという謙虚さが十分でないことなどが挙げられている。いじめを生まない心や環境をつくるためにも、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることを育むことが必要である。

(3) 資料について

本資料「ブランコ乗りとピエロ」は、サーカスの舞台裏で生じた二人のスターの対立に焦点を当て、自分を大切にしながら相手を尊重していくためには、自他の異なる立場や思いをどのように捉えることが大切なのかを考えられるように構成されている資料である。

互いをライバル視し、相手を受け入れられないでいるピエロとブランコ乗りのサムの関係は、とても興味深い。サムの言動に腹を立てながら、その頑張りを目の当たりにする場面から、相手を受け入れることの難しさや大切さをピエロとサムが朝まで語り合い、その後、素晴らしい共演を見せたことから、互いを尊重し合うことのよさを自分との関わりで考えることができる資料である。

3 指導方針

- 本主題では、児童が寛容・謙虚についての道徳的価値の自覚を深め、自己の生き方についての考えを深めるために、以下のような授業を展開する。
- 導入では、道徳的価値に対して問題意識を持たせるために、友達が自分と違う意見や立場だったらどうするかについてのアンケート結果を紹介する。

- 展開前段では、道徳的価値についての理解を深めるために、ピエロの思いを通して、広い心で相手を大切にしようとする心について振り返らせるために、書く活動や小グループでの伝え合う活動を取り入れる。
- 展開後段では、展開前段までを通して高まった道徳的価値を振り返り、これまでの自分やこれからの自分について考えられるようにするために、ピエロが広い心でサムを理解しようとする道徳的価値をもとに、日常生活と重ね合わせながら自分との関わりで考え、書く活動や二人組での伝え合う活動を取り入れる。
- 終末では、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりするために、私たちの道徳の80ページを読むことで、自分のことを謙虚に捉え、相手の立場に立って、考えることがより良い人間関係を築くことにつながることに気付き、広い心で相手を大切にしようとする道徳的心情につなげられるようにする。

4 研究との関わり

本研究では、「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める道徳の時間の指導の工夫」を研究主題とし、「日常生活につながる発問と書く活動、伝え合う活動を通して」を副主題に研究を進めてきている。

本時は、ねらいとする道徳的価値と児童の日常生活がつながるようにするために、教師が発問を工夫し、自らの考えを深めたり、整理したりするための書く活動や自己の考えを他者に伝え合う活動を取り入れた有効性を、発言やワークシート等を通して検証する。

5 本時の展開

- (1) **ねらい** 自分と異なる意見や立場を受け入れることの難しさやよさを知り、広い心で相手を大切にしようとする心情を育てる。
- (2) **準備** 読み物資料 ワークシート、場面絵、ホワイトボード、プロジェクタ
- (3) **展開**

学習活動	時間	主な発問(・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点 評価(★)
1 本時の学習課題をつかむ。	5分	○友達が自分と違う意見や立場だったらどうするかこれまでの生活を振り返る。 ・自分の意見を通す。 ・話し合う。 ・友達の意見に合わせる。	○児童の身近な問題について、事前にアンケートを取り、結果を知らせることで、道徳的価値に対して問題意識を持たせる。
2 資料「ブランコ乗りとピエロ」を読み、話し合う。	25分	○1時間を過ぎても演技を続けるサムとそれを見ているピエロはどんな思いだったか。 ピエロ ・自分だけ目立とうとして許せない。 サム ・自分がスターだ。 ○ピエロの言葉を聞き、サムはどんなことを考えたでしょうか。 ・ピエロは、自分のことをこんなに思ってくれていたんだ。 ・自分も、自分のことばかりではいけないんだ。 ◎朝まで語り合ったピエロとサムはどん	○お互いに自分のことだけしか考えていない二人の思いを考えさせる。 ○自己中心的なサムに対して、ピエロが一方向的に腹を立てる気持ちに気付かせ、人間理解を深められるようにする。 ○サムが全力を出し切って演技したことをおさえ、それを見たピエロの心境に変化が出ていることに気づかせる。 ○自分を受け入れてくれたピエロの思いを知ったサムの気持ちを考えさせる。 ○なぜ、ピエロからサムを憎む気持

		<p>な気持ちになったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サムと分かり合えてよかった。 ・サムは、陰でがんばっていることが分かった。 ・いっしょにサーカス団のためにがんばって、もっといい演技をしよう。 	<p>ちが消えていったのかを考えさせることで、ピエロの深い思いに気付けさせ価値理解、他者理解を深められるように、書く時間をしっかり取る。</p> <p>○広い心で相手を大切にしようとする気持ちについて自分との関わりで考えられるようにするために、ワークシートに書いた内容をもとに、小集団での伝え合う活動をさせる。</p> <p>★ピエロとサムの気持ちを考えながら、広い心で相手を大切にすることを考えられたか。</p>
<p>3 これまでに学習してきたことや経験を踏まえて書く。</p>	<p>10分</p>	<p>○自分とは異なる相手の意見をなかなか受け入れられなかったことはあるか。これからは、意見が対立した時、どのようにしたらよいのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と考えや意見が合わずに、言い合いになったことがあった。その後、しばらくの間、口をきかなくなった。でも、落ち着いて考えてみると、自分のために言ってくれたことだったので、意見が食い違う時でも、しっかり、友達の言葉を聞けるようになりたい。 ・これまでは、自分と意見が違ふと、すぐに聞こうとしなくなった。たとえ、意見が違っても、相手の考えをよく聞き、認めるようにしていきたいと思う。 	<p>○自分の考えをしっかりと持てるように、書く時間をしっかりと持てるようにする。</p> <p>○自己の生き方について考えを深められるようにするために、これまでの生活を振り返り、広い心で相手を大切にすることを捉えさせ、ワークシートに書いた内容をもとに、二人組で伝え合う活動を取り入れる。</p> <p>★これまでの自分の生活を振り返り、友達と考えや意見が合わなかった時のことを想起できたか。そのときの経験をもとに思いや課題を自覚できたか。</p>
<p>4 私たちの道徳の80ページを読む。</p>	<p>5分</p>	<p>○私たちの道徳の80ページを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを謙虚に捉え、相手の立場に立って、考えることがより良い人間関係を築くことにつながると考える。 	<p>○「私たちの道徳」を読むことで、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることを高めたい。</p>

(4) 板書計画

- 友達が自分と違う意見や立場だったらどうしていたか
- ・自分の意見を通す。
- ・話し合う。
- ・友達の意見に合わせる。

ブランドンコ乗りとピエロ

♥意見や立場が違うとき、どのように考えることが大切かについて考えよう。

○1時間を過ぎても演技を続けるサムとそれを見ているピエロは

どんな思いだったか。

ピエロー 許せない。大王が帰ってしまう。

サムー 自分がスターだ。大王見ていてください。

場面絵

○ピエロの言葉を聞き、サムはどんなことを考えたでしょうか。

・ピエロは、自分のことをこんなに思ってくれていたんだ。

・自分のことばかりではいけないんだ。

場面絵

1. 朝まで語り合うピエロとサムはどんな気持ちでしょうか。

・サムと分かり合えてよかった。

・サムは、陰でがんばっていることが分かった。

・いっしょにサーカス団のためにがんばって、もっといい演技をしよう。

2. 自分と異なる相手の意見をなかなか受け入れられなかったこととはあるか。これから周りの人と意見が対立した時、どのようにしたらよいでしょうか。

・友達と考えや意見が合わずに、言い合いになったことがあった。その後、しばらくの間、口をきかなくなった。

でも、落ち着いて考えてみると、自分のために言ってくれたことだったので、意見が食い違う時でも、しっかりと、友達の言葉を聞けるようになりたい。

(5) 資料分析

① ねらい

自分と異なる意見や立場を受け入れることの難しさやよさを知り、広い心で相手を大切にしようとする心情を育てる。

② 授業の意図

本資料「ブランコ乗りとピエロ」は、サーカスの舞台裏で生じた二人のスター、ブランコ乗りのサムとピエロの対立に焦点を当て、自分を大切にしながら相手を尊重していくためには、自他の異なる立場や思いを考えることの大切さ（価値理解）とともに、互いをライバル視し、相手を受け入れられないでいるブランコ乗りとピエロの関係についても考えさせる。サムの言動に腹を立てながら、その頑張りを目の当たりにする場面から、相手を受け入れることの難しさ（人間理解）や大切さ（価値理解）をピエロとサムが朝まで語り合い、その後、素晴らしい共演を見せたことから、互いを尊重し合うことのよさを自分自身との関わりで考えさせる。

中心発問

朝まで語り合うピエロとサムはどんな気持ちでしょうか。

意図 なぜ、ピエロからサムを憎む気持ちが消えていったのかを考えさせることで、ピエロの深い思いや迷いを自分との関わりで考えさせる。

価値理解

人間理解

他者理解

豊かな人間関係を築くためには、自分の思いを持つことは大切であるが、まず、相手の思いをくみ取ろうとすることが必要で、自分のことを乗り越える難しさを考えさせる。

発問 ピエロの言葉を聞き、サムはどんなことを考えたでしょうか。

意図 サムが全力を出し切って演技したことをおさえ、それを見たピエロの心境に変化が出ていることに気づかせる。

価値理解

他者理解

自己中心的なサムに対して、ピエロが一方的に腹を立てる気持ちに気付かせ、そのときの思いを深められるようにする。

発問 1時間を過ぎても演技を続けるサムとそれを見ているピエロはどんな思いだったか。

意図 お互いに自分のことだけしか考えていない二人の思いを考えさせる。

人間理解

他者理解

発問

自分と異なる相手の意見をなかなか受け入れられなかったことはあるか。これから意見が対立した時、どのようにしたらよいでしょうか。

意図

読み物資料から学んだことやこれまで生活を想起させ、これからの生き方について考えさせる

自己理解

道徳学習指導案（6年〇組）

1 主題名 受けつがれる命（内容項目3－(1) 生命尊重）

2 資料名 「その思いを受けついで」（出典：私たちの道徳 小学校5・6年 文部科学省）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

高学年3－(1)は、主として自他の生命を尊重し力強く生き抜こうとする心を育てるとともに、生命に対する畏敬の念を持つことができる児童を育てようとする内項項目である。

高学年になると、生命の誕生から死に至るまでの過程を理解することができる。また、一人一人の生命は、様々な人と支え合う中で生まれ、さらに、生命は祖先から自分へ、そして、子孫へと受けつがれていくことも理解できるようになる。その中で、生命はかけがえのないものだとは自覚できるようにすることが重要になってくる。そこで、人間の誕生の喜びや死の重さ、生きていくことの尊さ、さらには、共に生きることの素晴らしさを様々な体験や社会の出来事と向かい合う中で、深く考えられるように工夫することが必要である。

(2) ねらいに関わる児童の実態

6年生の多くの児童は家庭的にも恵まれ、学校の取り組みに対して好意的に、また、温かい気持ちで協力してくれる家庭も多い。このような家庭で生活する中で、児童の中には、学校に行くための準備や学校内での様々な生活に対して、周囲の大人にやってもらって当たり前という様子が見られる。例えば、登下校の場面では、多くの児童が保護者の送迎に頼っている。そこで、家族や周囲の大人の温かい支援によって、毎日、楽しく学校生活を送れていることを確認させ、自分に与えられている命を大切にしていこうという心情を育てる必要がある。また、数名ではあるが、厳しい家庭環境の中で生活し、様々な問題を抱えながら、毎日、学校生活を送っている児童もいるので、「命の大切さ」をしっかりと考えさせたい。現在の社会状況として、中・高生が命に関わるような事件、事故が後とを絶たないことが社会問題となっている今、生命の大切さに気付かせることは、大変意義深いと考える。

(3) 資料について

本資料「その思いを受けついで」は、生前はもとより死を迎える時期が近づいてもなお、孫への愛情を持ち続けた祖父、また、その思いを大切に受けついで、力強く生きていこうとする大地の言動から、今までの自分を見つめ、生命について、自分との関わりで深く考えられることができる。また、家族の愛情やつながりを考えることで生命のつながりについても自分との関わりで考えることができる。また、生命の有限性、連続性に着目させながら自他の生命を尊重する態度を育むこともできる資料である。

4 指導方針

- 本主題では、児童が生命尊重についての道徳的価値の自覚を深め、自己の生き方についての考えを深めるために、以下のような授業を展開する。
- 導入では、道徳的価値に対して問題意識を持たせるために、命についてのアンケート結果を紹介することにより、生命の大切さについて、改めて深く振り返られるようにする。
- 展開前段では、道徳的価値についての理解を深めるために、大切な存在である祖父の命が残り3カ月と限られていることを知った時の大地の心情に共感させるとともに、誰にでも起こるかもしれない、かけがえのない人を失う不安や寂しさに共感させる。また、限られた時間を少しでも祖父と共に過ごす時間を大切にしたい大地の思いを深く考えられるようにするために、書く活動や小集団での伝え合う活動を取り入れる。
- 展開後段では、展開前段までを通して高まった道徳的価値をもとに、これまでの自分やこれから

の自分について考えられるようにするために、亡くなってから見つかった祖父ののし袋を見て、祖父の深い思いを知り、じいちゃんが亡くなくても、じいちゃんの思いをもとに前を向いてがんばってこうとする気持ちを基に、日常生活と重ね合わせながら生命の大切さ、尊さ、つながりについて、自分との関わりで考え、書く活動や二人組での伝え合う活動を取り入れる。

- 終末では、いのちのバトンの詩を読むことで、周りの人たちの深い愛情や思いによって支えられていることに気付き、自分や周りの人たちの生命を尊重しようとする道徳的心情につなげられるようにする。また、資料を通して高まった道徳的価値を振り返り、今後の自分について考えられるようにする。

5 研究との関わり

本研究では、「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えが深まる道徳の時間の指導の工夫」を研究主題とし、「日常生活につながる発問、書く活動、伝え合う活動を通して」を副主題に研究を進めてきている。

本時は、ねらいとする道徳的価値と児童の日常生活がつながるようにするために、教師が発問を工夫し、自らの考えを深めたり、整理したりするための書く活動や自己の考えを他者に伝え合う活動を取り入れた有効性を、発言やワークシート等を通して検証する。

6 本時の展開

- (1) **ねらい** 生命はかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。
- (2) **準備** 読み物資料 ワークシート、場面絵、プロジェクタ、ホワイトボード
- (3) **展開**

学習活動	時間	主な発問(・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点 評価(★)
1 本時の学習課題をつかむ。	5分	○命という言葉からどんなことを考えますか。 ・一つしかない。 ・大事 ・終わりがある。	○事前にとったアンケートの結果を紹介することにより、日常生活で心がけていることを例に挙げながら、道徳的価値に対して問題意識を持たせる。
2 資料「その思い受けついで」を読み、大地の思いや気持ちを考える。	25分	○ぼくは、じいちゃんの病院にどんなことを考えながら毎日通い続けたでしょうか。 ・残りの時間を大切にしたい。 ・最後になるかもしれないから、一日でもいっしょにいたい。 ○じいちゃんが手を握り返してくれたときぼくはどんなことを思ったでしょう。 ・じいちゃん元気出して ・まだ、死なないでよ。 ・おじいちゃんががんばって。 ◎誕生祝いののし袋に書かれた字を見て、ぼくはどんな気持ちになったでしょう。 ・じいちゃん今までありがとう。じいちゃんに何もしてやれなくてごめんなさい。ぼくは、じいちゃんのことはずっと忘れないよ。じいちゃんも、天国か	○限られた時間を大切にしたいというぼくのじいちゃんに対する深い思いに気付かせ、価値理解を深められるようにする。 ○目を閉じているおじいちゃんに声を掛け続けたぼくのおじいちゃんに対する深い思いを気付かせる。 ○近づきつつある死に対する恐れとがんばって欲しいという願う気持ちを考えさせる。 ○なぜ、じいちゃんのはし袋を準備していたのかも考えさせることで、祖父の深い愛情に包まれて来たことを実感し、祖父の思いを受けついでいこうとする大地の思いに気付かせ、価値理解、他者理解を深められるよ

		<p>から見守っててください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」のことを大切に思ってくれたじいちゃんのおかげで、ここまで大きくなってこれたんだ。「ぼく」のことを大切に思ってくれる周りの人を、ぼくも大切にしていこうよ。 	<p>うにするために、ワークシートに書いた内容をもとに、小グループでの伝え合う活動をさせる。</p> <p>★大地の気持ちを考えながらじいちゃんへの思い、じいちゃんの命を受けつごうという思いを考えられたか。</p>	
3	本時 10分	<p>で考えたことを振り返り、発表する。</p> <p>○これまで、命についてどんなことを考えていましたか。これから、命について、どのように考えていきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで、生きていることを当たり前のように思っていた。これからはもっと自分の命を大切にしていきたい。 ・命は自分だけのものではなく家族や周りの人々の深い思いによって支えられているのだと思う。自分だけでなく、周りの人のことも大切にしていきたい。 	<p>○自己の生き方についての考えを深められるようにするために、これまでの生活を振り返り、自分の存在はかけがえのないものである、自分や自分の周りの命を大切にしようとする心、命の尊さについて捉えさせ、ワークシートに書いた内容をもとに、二人組で伝え合う活動を取り入れる。</p> <p>★これまで、命について考えてきたことを振り返り、今後の思いや課題を自覚できたか。</p>	
4	詩を 読む。	5分	<p>○いのちのバトンの詩を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、私たちの命は多くの人との関わりの中で生きている。 	<p>○詩を聞くことで、余韻を残し、自分がたくさんの人たちと関わっていることを実感させたい。</p>

(4) 板書計画

<p>○命という言葉からどんなことを考えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一つしかない。 ・ 大事 ・ 終わりがあがる。 	<p>○命について考えよう。</p> <p>○じいちゃんの命が後3カ月だと聞いたぼくはどんな気持ちだったでしょうか。</p> <p>○じいちゃんが手を握り返してくれたとき、ぼくはどんなことを思ったでしょう。</p>	<p>○誕生祝いののし袋に掛けられた字を見て、ぼくはどんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくのことをこんなに考えてくれたんだ。 ・ 「ぼく」のことを大切に思ってくれたじいちゃんのおかげで、ここまで大きくなってこれたんだ。「ぼく」のことを大切に思ってくれる周りの人をぼくも大切にしていこうよ。 	<p>○これまで、自分の命、自分の周りの人々の命についてどんなことを考えていましたか。これからは、命についてどのように考えていきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで、生きていることを当たり前のように思っていた。これからはもっと自分の命を大切に生きていきたい。 ・ 命は自分だけのものではなく家族や周りの人々の深い思いによって支えられているのだと思った。これからは、自分だけでなく、周りの人のことも大切にしていきたい。
--	---	--	---

(5) 資料分析

① ねらい

生命はかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。

② 授業の意図

本資料「その思いを受けついで」は、生前はもとより死を迎える時期が近づいてもなお、孫への愛情を持ち続けた祖父、また、その思いを大切に受けついで、力強く生きていこうとする大地の言動から、今までの自分を見つめ、生命について、自分との関わりで深く考えられることができる。また、生命の有限性、連続性に注目させながら自他の生命を尊重する態度を育むこともできる資料である。大切な存在である祖父の命が残り3カ月と限られていることを知った時の大地の心情に共感させる（価値理解）とともに、誰にでも起こるかもしれない、かけがえのない人を失う不安や寂しさに共感させる。また、限られた時間を少しでも祖父と共に過ごす時間を大切にしたい大地の思い（価値理解）を深く考えたり、話し合ったりすることで、道徳的価値についての理解を深められるようにする。亡くなってから見つかった祖父ののし袋を見て、祖父の深い思いを知り、じいちゃんが亡くなくても、じいちゃんの思いをもとに前を向いてがんばっていこうとする気持ち（価値理解）を基に、自分との関わりで考えられるようにする。

中心発問

誕生祝いののし袋に掛けかれた字を見て、ぼくはどんな気持ちになったでしょう。

意図 祖父の深い愛情に包まれて来たことを実感し、祖父の思いを受けついでいこうとする思いを自分との関わりで考えさせる。

価値理解

他者理解

近づきつつある死に対する恐れと、がんばってほしいと願う気持ちを自分との関わりで考えさせる。

発問 じいちゃんが手を握り返してくれたとき、ぼくはどんなことを思ったでしょう。

意図 目を閉じているおじいちゃんに声を掛け続けたぼくのおじいちゃんに対する深い思いを気付かせる。

価値理解

他者理解

誰にでも起こるかもしれない、かけがえのない人を失う不安や寂しさに共感させるようにする。

発問 ぼくは、じいちゃんの病院にどんなことを考えながら毎日通い続けたでしょう。

意図 限られた時間を大切にしたいというぼくのおじいちゃんに対する深い思いに気付かせ気付けさせるようにする。

価値理解

他者理解

発問

これまで、命についてどんなことを考えていましたか。これから、命について、どのように考えていきたいですか。

意図

じいちゃんの思いをもとに前を向いてがんばっていこうとする気持ちをもとに、日常生活と重ね合わせながら「命」について自分の考えを持ち、その道徳的価値に基づいて、自分自身の生き方を考える。

自己理解

他者理解

道徳学習指導案（6年〇組）

1 主題名 世界の人々とつながる（内容項目4－(8) 国際親善）

（資料名「ペルーは泣いている」（出典：私たちの道徳 小学校5・6年 文部科学省）

2 主題設定の理由

(1) ねらいに関わる児童の実態

小学6年生は、社会的認識能力の発達や、社会科等での学習との関連が出てくる学年とはいえ、国際親善の内容については具体的にはイメージしにくいと感じる。それは、国際親善とはどういった思いや行動なのか、分かりづらいことが原因であると思う。

本校は、外国籍の児童が多く、6年生の教室にも各クラスに在籍しており、ペルー国籍、ブラジル国籍の児童は、大変な思いをしながらも、他の児童と同じように学校生活を送ることができている。日々、外国籍の子どもと直接的に関わっているものの、国際理解、国際親善を意識しながらの生活をしているわけではない。よって、外国の人々が、我が国と同じようにそれぞれの国の伝統と文化に愛着や誇りを持って生きていることを理解し、これを尊重するとともに、我が国の伝統と文化についての理解を深め、尊重する態度を持って考えを深めたり、交流したりしようとする大切さに気付かせることは、大変意義深いと考える。

(2) ねらいとする道徳的価値について

高学年4－(8)は、国際理解と親善の心を持った児童を育てようとする内項項目である。国際化が進展する中であって、外国の人々と関わる際には、外国の人々や異なる文化に対する理解と尊敬の念を持ち、日本人としての自覚を持って交流することが大切である。

そこで、外国の人々との交流の在り方についての理解を深め、国際交流に努めようとする意欲を高められるように工夫することが必要である。

(3) 資料について

本資料「ペルーは泣いている」は、1967年の女子バレーボールの世界選手権での実話を基にした資料である。加藤明(アキラ)は、ペルーの女子バレーボールチームの監督になり、文化や習慣の違いを乗り越え、ペルーの選手たちと心を通わせて、とうとうペルーのチームを南米一位にまで導いた。彼が亡くなったときには、「ペルーは泣いている」と新聞で報じられ、その九年後には、アキラの名前をつけた小・中学校が建てられるほどであった。

外国の文化を理解して積極的に交流し、国際親善に努めたアキラの姿から、外国の人々や文化を大切にし、日本人としての自覚を持って交流に努めようとする意欲を高めることができる資料である。

(4) 指導方針

- 本主題では、児童が国際親善についての道徳的価値の自覚を深め、自己の生き方についての考えを深めるために、以下のような授業を展開する。
- 導入では、道徳的価値に対して問題意識を持たせるために、外国の人と仲良くするためにはどのようなことが必要かを考えた後、「私たちの道徳」の176、177ページを読む。
- 展開前段では、道徳的価値についての理解を深めるために、アキラの思いを通して、国際交流の大切さ、難しさについて自分のこととして深く捉えられるようにする。また、外国の文化を理解して、積極的に交流することの良さを自分との関わりで考えられるようにするために、書く活動、伝え合う活動を取り入れる。
- 展開後段では、展開前段までを通して高まった道徳的価値を振り返り、これまでの自分やこれからの自分について深く考えられるようにするために、世界の人々と交流に努めることは大切であるという道徳的価値のもと、これまでの日常生活と重ね合わせながら自分の考えを持たせ、書く活動や二人組での伝え合う活動を取り入れる。
- 終末では、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりするために、ALTをゲストテ

ィーチャーとして招き、国際交流として取り組んでいることやその思いや願いなどについての話を聞き、普段の外国語活動とは違う国際理解についての場を設定する。

3 研究との関わり

本研究では、「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める道徳の時間の指導の工夫」を研究主題とし、「日常生活につながる発問と書く活動、伝え合う活動を通して」を副主題に研究を進めてきている。

本時は、ねらいとする道徳的価値と児童の日常生活がつながるようにするために、教師が発問を工夫し、自らの考えを深めたり、整理したりするための書く活動や自己の考えを他者に伝え合う活動を取り入れた有効性を、発言やワークシート等を通して検証する。

4 本時の展開

- (1) **ねらい** 外国の人々や文化を大切にしようとする心を持ち、世界の人々との交流に努めようとする意欲を高める。
- (2) **準備** 読み物資料 ワークシート、場面絵、ホワイトボード、プロジェクタ
- (3) **展開**

学習活動	時間	主な発問 (・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点 評価(★)
1 本時の学習課題をつかむ。	5分	○外国の人と仲良くするためにはどのようなことが必要だと思いますか。 ・外国の言葉を話せるようになること。 ・外国の様子を知ること。 (世界に目を向けた人物として、坂本龍馬と新渡戸稲造の名言を読み上げた後、加藤明さんを紹介する。)	○私たちの道徳 176, 177 ページを読み、世界の人々との交流や親善に早くから目を向け、尽力した人物を紹介し、その人物の思いを知って、外国に関心を持ち、世界の人々との親善に努めようとすることを例に挙げながら、道徳的価値に対して問題意識を持たせる。
2 資料「ペルーは泣いている」を読み、話し合う。	25分	○何人かの選手がやめていき、新聞にも批判されたとき、アキラはどのような気持ちだったと思うか。 ・なんで日本流を分かってくれないんだ。 ・自分がペルーのために、こんなにいるのに、なぜ、文句を言われなければならないのか。 ・自分の練習についてこられないペルーの選手が悪い。 ○自分が段々とペルーの人になっていくように感じたアキラは、どのような気持ちだったか。 ・やっと心と心が通ったようでうれしい。 ・ペルーのことが分かってきたので、もっと、がんばるぞ。 ◎アキラの目からも、なみだがあふれそうになったとき、どんな気持ちだっただろう。 ・あきらめないでがんばってきて、選手といっしょに喜びを感じられてうれし	○アキラの指導についてこないペルーの選手の方が悪い、自分は悪くないというような気持ちに気づかせ、人間理解を深められるようにする。 ○がんばろうという気持ちと合わせて、日本の練習方法でペルーのために強くしたいという気持ちにも気付かせたい。 ○日本人の監督でありながら、ペルーの選手たちやペルーの国のことを理解しようとしている気持ちを考えさせ、相手国のことを理解することが信頼につながることに気づかせ、価値理解を深められるようにする。 ○なぜ、ペルーの選手が「上を向いて歩こう」の歌を歌ったのかを考えさせることで、外国人であるアキラへの深い思いに気づかせ、価値理解を深められるようにする。

		<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は苦勞したけど選手たちと心を通わせ、信じ合えることができてよかった。 ・メダルは取れなかったけど、選手たちと心が通じたようでうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをしっかりと持てるように、書く時間をしっかりと持てるようにする。 ○外国の人々や文化を大切にし、日本人としての自覚を持って交流に努めようとする気持ちの大切さについて、自分との関わりで考えられるようにするために、ワークシートに書いた内容をもとに、小集団での伝え合う活動を取り入れる。 ★外国の人のことを理解することが、外国の人との信頼関係につながるという大切さについて考えることができたか。 	
3	これまで に学習して きたことや 経験を踏ま えて書く。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の人々と仲良くするためにどうしていきたいか。 ・外国のことをもっとよく勉強し、よく知ろうと思うことが大切。 ・クラスの中にも、外国の友達がいるけど、これまで仲良くできていた。今まで通り、お互いをよく理解し、仲良くしていきたい。 ・これからは、いろいろな国の人のこともよく理解し、将来は、外国の人といっしょに生活ができるようになりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の生き方についての考えを深められるようにするために、これまでの生活を振り返り、世界の人々と交流に努めることの大切さについて捉えさせ、ワークシートに書いた内容をもとに、二人組での伝え合う活動を取り入れる。 ★これまでの外国籍の友達との関わり方、外国の人との関わり方について自分の生活を振り返り、また、今後の思いや課題を自覚できたか。
4	ALTの話 を聞く。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ○カール先生は、どうして日本へ来て、みんなに英語を教えているのか、カール先生の思いを聞こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTをゲストティーチャーとして招き、どんな思いで日本に来て、小学生に英語を教えているかなどについて話を聞き、外国の人とコミュニケーションを取れるようになってほしいという思いを実感させたい。

(4) 板書計画

○外国の人と仲良くするためにはどのようなことが必要だと
思いますか。

- ・外国の言葉を話せるようになること。
- ・外国の様子を知ること。

ペルーは泣いている

♥世界の人とのつながりについて考えよう。

○何人かの選手がやめていき、新聞にも批判されたとき、
アキラはどのような気持ちだったと思うか。

場面絵

- ・なんで日本流を分かってくれないんだ。
- ・自分がペルーのために、こんなにしているのに、
なぜ、文句を言われなければならないのか。

○自分が段々とペルーの人になっていくように感じたアキラ
は、どのような気持ちだったか。

場面絵

- ・やっと心と心が通ったよううれしい。
- ・ペルーのことが分かってきたので、もっと、が
んばるぞ。

1. アキラの目からも、なみだがあふれそうになったとき、
どんな気持ちだっただろう。

- ・最初は苦労したけど選手たちと心を通わせ、信じ合える
ことができてよかった。
- ・メダルは取れなかったけど、選手たちと心が通じたよう
でうれしい。

2. 世界の人々と仲良くするためにどうしていききたいか。

- ・外国のことをもっとよく勉強し、よく知ろうと思うこと
が大切。
- ・このクラスにも、外国の友達がいるけど、これまで仲良
くできていた。今まで通り、お互いをよく理解し、仲良
くしていききたい。

(5) 資料分析

① ねらい

外国の人々や文化を大切にしようとする心を持ち、世界の人々との交流に努めようとする意欲を高める。

② 授業の意図

外国の人々や文化を大切にし、日本人としての自覚を持って交流しようとする心を深めるために、外国の文化を理解して積極的に交流し、国際親善に努めたアキラの姿を取り上げ、外国人監督でありながらペルーの選手たちやペルーの国のことを理解しようとするのが信頼につながることの大切さ(価値理解)とともに、自分のやり方についてこないペルーの人が悪い、自分のやり方は悪くない、外国の人を理解し、尊重する難しさ(人間理解)についても考えさせる。

中心発問

アキラの目からも、なみだがあふれそうになったとき、どんな気持ちだったか。

意図 お互いを理解し、尊敬できたときの思いについて
のよさとそこまでの難しさを、自分との関わりで考
えさせる。

価値理解

他者理解

外国の人々や異なる文化への理解と尊敬の念を持つよ
さとともに、外国の人々との交流の持ち方の難しさを考
えられるようにする。

発問 自分が段々とペルーの人になっていくように
感じたアキラは、どのような気持ちだったか。

意図 日本人の監督でありながら、ペルーの選手たちや
ペルーの国のことを理解しようとしている気持ちを
考えさせ、相手国のことを理解することが信頼につ
ながるといふ思いを自分との関わりで考えさせる。

価値理解

他者理解

ペルーのためにがんばろうと思うことのよさととも
に、なかなか、ペルーの人に分かってもらえない難しさ
も考えられるようにする。

発問 何人かの選手がやめていき、新聞にも批判され
たとき、アキラはどのような気持ちだったと思うか。

意図 日本から来て、バレーボールを教えてあげている
のに、それを理解してもらえない思いを自分との
関わりで考えさせる。

人間理解

他者理解

発問

世界の人々と交流するためにどの
ような気持ちが必要だと思うか。

意図

これまで、自分の学級、学年の外
国籍の友達との関わり方を想起させ、
これからの生き方について考えさせ
る。

自己理解

道徳学習指導案（6年〇組）

1 主題名 公正・公平な態度で（内容項目4－(2) 公正・公平）

（資料名 「愛の日記」（出典：私たちの道徳 小学校5・6年 文部科学省）

2 主題設定の理由

(1) ねらいに関わる児童の実態

本校は、外国籍の児童が多く、6年生の各学級にも2、3名ずつ在籍しており、ペルー国籍、ブラジル国籍の児童は、大変な思いをしながらも、他の児童と同じように学校生活を送ることができている。外国籍の児童が困っているようなときには、他の児童が、すぐに解決してくれているような様子もある。また、特別支援学級の児童に対しても同様な姿がある。児童会活動等を中心に、いじめを防止する活動に取り組んでおり、温かい人間関係を構築していこうとする姿が見られる。しかし、親しくない友達には、思い込みにより誤解が生じ、トラブルに発展することもある。自分は些細なことで傷つき、不安感を抱える一方で、自分も他人を傷つけたり、不快感を与えていることに気付いていない児童もいる。そこで、本時では、主人公の気持ちの変化について話し合いながら、日常生活における不公平や差別、偏見に気付かせたり、考えさせたりし、誰に対しても差別をしたり、偏見を持ったりすることなく、公正・公平に接しようという態度を育てることは、大変意義深いと考える。

(2) ねらいとする道徳的価値について

高学年4－(2)は、民主主義社会の基本的な価値である社会正義の実現に努め、公正、公平に振る舞う児童を育てようとする内項項目である。

社会正義は、社会的な認識能力と人間の平等観に基づく人間愛が基本になければならない。公正、公平にすることは、私心にとらわれずに誰にも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避け、社会的な平等が図られるように振る舞うことである。しかし、現実の社会においては、言われなき差別に苦しんでいる人々が少なからず存在する。人は、差別、いじめ、偏見、ねたみ、見下すなどの心の弱さを誰しも持っているが、だからといって、差別や偏見により人を傷つけたり、苦しめたりすることがあってはならない。多くの人たちは、被害者としての意識が強く、誰もが持つ人の心の弱さのために、気付かない間に加害者になっていることには、案外気付いていない。差別や偏見を解消するためには、まず、日々の様々な差別や偏見に気付く目を養うことが大切であると考えられる。そのためには、いじめなどの身近な差別や偏見に気付かせるとともに、不正な行為を絶対に許さないという断固たる態度を育てることを通して、社会正義についての自覚を深めていくことが大切である。

そこで、誰に対しても差別したり偏見をもったりすることなく、公正・公平に接しようとする態度を育てられるように指導することが必要である。

(3) 資料について

本資料「愛の日記」は、子どもたちのための施設エリザベス・サンダース・ホームを設立した澤田美喜に関する資料である。全体を通して、主人公である愛の心情が、日記形式で綴られている。ベトナムから来日したクラスメイトであるリャンちゃんに、愛はなかなか声を掛けられないでいた。父は、そんな愛を自分が育ったエリザベス・サンダース・ホームに連れて行き、いじめられた経験を話す。愛の父が生まれたのは、戦後の混乱期であった。アメリカ人と日本人との間に生まれ、ホームに預けられた父は、ホームを一步出ると目や髪の毛の色が違うという理由で、いじめを受けた。父の話聞いて、愛は心がうずく。そんな父を支えたのが、ホームの設立者である澤田美喜であった。澤田先生の分け隔てない人間愛に触れ、愛は、自分の身近な生活における差別や偏見に関わる問題を自分の課題として受け止めることができた。愛の心情を想像することで、公正、公平な態度について、自分との関わりで考えることのできる資料である。

3 指導方針

- 本主題では、児童が公正・公平についての道徳的価値の自覚を深め、自己の生き方についての考えを深めるために、以下のような授業を展開する。
- 導入では、道徳的価値に対して問題意識も持たせるために、児童会のいじめアンケートの結果や自分の何気ない言葉や行動で誰かを傷つけてしまったことはないかについてのアンケート結果を紹介する。
- 展開前段では、道徳的価値についての理解を深めるために、リャンちゃんのことを気に掛けながらも、なかなか声を掛けられないでいる主人公の愛に、児童が自分自身を重ね合わせて深く考えられるようにするために、書く活動や小集団での伝え合う活動を取り入れる。
- 展開後段では、展開前段までを通して高まった道徳的価値を振り返り、これまでの自分やこれからの自分について考えられるようにするために、澤田先生の人間に対する普遍的な愛情や偏見、差別を許さないという道徳的価値をもとに、日常生活と重ね合わせながら、公正・公平の意義について自分との関わりで考えさせ、書く活動や二人組での伝え合う活動を取り入れる。
- 終末では、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりするために、私たちの道徳133ページを読むことで、差別や偏見のない公正・公平な社会をつくるためには、どのような見方、考え方が大切なのかについて考え、いじめや仲間外れを許さない態度につなげられるようにする。

4 研究との関わり

本研究では、「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める道徳の時間の指導の工夫」を研究主題とし、「日常生活につながる発問と書く活動、伝え合う活動を通して」を副主題に研究を進めてきている。

本時は、ねらいとする道徳的価値と児童の日常生活がつながるようにするために、教師が発問を工夫し、自らの考えを深めたり、整理したりするための書く活動や自己の考えを他者に伝え合う活動を取り入れた有効性を、発言やワークシート等を通して検証する。

5 本時の展開

- (1) **ねらい** 差別をすることや偏見を持つことなく、公正・公平に接することの大切さを理解し、進んで正義の実現に努めようとする態度を育てる。
- (2) **準備** 読み物資料 ワークシート、場面絵、ホワイトボード、プロジェクタ、ネームプレート
- (3) **展開**

学習活動	時間	主な発問(・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点 評価(★)
1 本時の学習課題をつかむ。	5分	○澤田美喜さんについて知り、すべての人と同じ態度で接することができる心について考えよう。 ・誰にでも同じように接するなんてすごい。 ・なかなかできることではない。	○澤田美喜さんについて紹介しながら、道徳的価値への問題意識を持たせる。 ○差別、偏見の意味について、理解の共通化を図る。
2 資料「愛の日記」を読み、話し合う。	25分	○あなたは、リャンちゃんに声を掛けられますか。 ・言葉が通じないから掛けられない。 ・周りの子も避けているから声を掛けられない。 ・声を掛けたい気持ちはあるが、声を掛ける勇気がない。 ○父の言葉を聞いて黙ったままだった愛	○自分と違うものへの違和感、自分もいじめられるという心配等の不安を抱く愛の気持ちにも気付かせ、人間理解を深められるようにする。 ○ネームプレートを貼るように伝え、自分事として考えられるようにする。 ○父の言葉によって、差別やいじめ

		<p>は、声を掛けたい気持ちと声を掛けない気持ちどちらが強いだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リャンちゃんに声を掛けたら喜んでくれるだろう。 ・声を掛けたい気持ちはあるが、勇気が出ない。 ・お父さんに悪いから、声を掛けてみようかな。 ・声を掛けて、みんなに変なふうに思われたらいやだな。 <p>◎愛は、どういう気持ちから「私の誕生日会に来てくれる」と言ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんの話や澤田先生のことを知り、私も、誰に対しても同じように接したいと思ったから。 ・お父さんや澤田先生に申し訳ないから ・お父さんに話を聞き、アルバムを見たりしたから。 ・周りの友達に流されてはいけないと思ったから。 	<p>に屈せず、がんばってきた父の気持ちに気付かせることを通して、価値理解、人間理解、他者理解を深められるようにする。</p> <p>○澤田先生の人間に対する深い愛情や偏見、差別を絶対に許さない強い心を通して、公正、公平の意義を考えさせ、価値理解、他者理解を深められるようにする。</p> <p>○公正・公平に接することの大切さ、良さを理解し、進んで正義の実現に努めようと気持ちを自分との関わりで考えられるようにするために、ワークシートに書いた内容をもとに、小集団での伝え合う活動を取り入れる。</p> <p>★父の気持ちや澤田先生を考えながら、差別をすることや偏見を持つことなく、公正・公平に接することの大切さを自分との関わりで考えられたか。</p>
<p>3 本時で考えたことを振り返り、発表する。</p>	<p>10分</p>	<p>○これまでの自分を振り返り、困っている人、一人になっている人に対して、どのように声を掛けていましたか。もし、声を掛けられないでいる人は、それはなぜですか。これからの自分は、どうしていきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで、自分と違ったり、みんなと同じことができなかつたりすると、自然と避けていて、声を掛けられないでいた。これからは、相手のことをよく聞き、相手の気持ちを考えて声を掛けられるようにしたい。 	<p>○自己の生き方についての考えを深められるようにするために、これまでの生活を振り返り、誰に対しても、公正・公平に接しようとする気持ちの大切さについて捉えさせ、自分の考えを持てるように、ワークシートに書いた内容をもとに、二人組で伝え合う活動を取り入れる。</p> <p>★これまで、差別をすることや偏見を持つことなく、誰に対しても、公正・公平に接していたかについて、自分の生活を振り返り、自己の生き方についての考えを深めることができたか。</p>
<p>4 私たちの道徳 132、133ページを読む。</p>	<p>5分</p>	<p>○私たちの道徳133ページを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別や偏見のない公正・公平な社会をつくるためには、どのような見方、考え方が大切なのかについて考え、いじめや仲間外れを許さないと考える。 	<p>○「私たちの道徳」を読むことで、公正・公平に接することの大切さを理解し、進んで正義の実現に努めようとする態度を育てたい。</p>

(4) 板書計画

愛の日記

♥すべての人と同じ態度で接することができる心について考えよう。

○あなたは、リヤンちゃんに声を掛けられますか。

場面絵

声を掛けたい

声を掛けられない

ネームプレート

理由

言葉が通じないから
日本人ではないから
何となく、声を掛けづらいから
声を掛けたい気持ちはあるが勇気がない

○父の言葉を聞いて黙ったままだった愛は、声を掛ける気持ちと声を掛けられない気持ちどちらが強いだろう。

場面絵

声を掛けたい

声を掛けられない

・声をかけてあげたいけど、言葉が分からない。
・お父さんの話を聞いて、声をかけたくなくなったけど、いざとなると、勇気が出ない。

○愛は、どういう気持ちから「私の誕生日会に来てくれる」と言ったのでしょうか。

場面絵

- ・澤田先生のようにになりたいと思ったから
- ・一人にいるリヤンちゃんに少しでも楽しんでもらいたい
- ・誰に対しても、同じように接したい

○これまでの自分を振り返り、困っている人、一人になっている人に対して、どのように声を掛けていましたか。もし、声を掛けられないでいる人は、それはなぜですか。これからの自分はどうしていききたいですか。

イラスト

- ・声を掛けたいけど、自分もいじめられると思うと、話しかけられなかった。

これからは、勇気を出して、誰に対しても声を掛けられるようになりたい。

(5) 資料分析

① ねらい

差別をすることや偏見を持つことなく、公正・公平に接することの大切さを理解し、進んで正義の実現に努めようとする態度を育てる。

② 授業の意図

本資料「愛の日記」は、子どもたちのための施設エリザベス・サンダース・ホームを設立した澤田美喜に関する資料である。全体を通して、主人公である愛の心情が、日記形式で綴られている。ベトナムから来日したクラスメイトであるリャンちゃんは、孤立していた。愛はなかなか声を掛けられないでいた。自分と違うものへの違和感、自分もいじめられるという心配等の不安を抱く愛の気持ち(人間理解)にも気付かせるようにする。父は、そんな愛を自分が育ったエリザベス・サンダース・ホームに連れて行き、いじめられた経験を話す。愛の父が生まれたのは、戦後の混乱期であった。アメリカ人と日本人との間に生まれ、ホームに預けられた父は、ホームを一步出ると目や髪の毛の色が違うという理由で、いじめを受けた。父の話聞いて、愛は心がうずく。そんな父を支えたのが、ホームの設立者である澤田美喜であった。澤田先生の分け隔てない人間愛に触れ、愛は、自分の身近な生活における差別や偏見に関わる問題を自分の課題として受け止めることができた。愛の心情を想像することで、公正、公平な態度(価値理解)について自分自身との関わりで考えさせる。

中心発問

愛は、どういう気持ちから「私の誕生日会に来てくれる」と言ったのでしょうか。

意図 澤田先生や父の人間に対する深い愛情や偏見、差別を絶対に許さない強い心を通して、公正・公平の意義を自分との関わりで考えさせる。

価値理解

他者理解

父の「愛は、リャンちゃんにやさしくしているんだろうねえ?という問いにより、愛はリャンちゃんを差別していたことに気づき、差別や偏見を持たずに接していこうとする気持ちを自分との関わりで考えさせる。

発問 父の言葉を聞いて黙ったままだった愛は、声を掛けたい気持ちと声を掛けない気持ちどちらが強だろうか。

意図 澤田先生の愛情によって、差別やいじめに屈せず、がんばってきた父の気持ちに気付かせる。

価値理解

人間理解

他者理解

心のどこかでリャンちゃんに対して偏見を持っている気持ちに気付かせ、そのときの思いを深められるようにする。

発問 あなたは、リャンちゃんに声を掛けられますか。

意図 自分と違うものへの違和感、自分もいじめられるという心配等の不安を抱く愛の気持ちにも気付かせる。

価値理解

人間理解

他者理解

発問

これまでの自分を振り返り、困っている人、一人になっている人に対して、どのように声を掛けていましたか。もし、声を掛けられないでいる人は、それはなぜですか。これからの自分は、どうしていきたいですか。

意図

いじめや差別、偏見について改めて考え、その道徳的価値に基づいて、自分自身の生き方を考える。

自己理解

他者理解